



藩祖を祀る

「につぼうしや日峯社(松原神社)」は、 なぜここに?

もともと、ここに小さな石祠せきひがあったことがきっかけです。

佐

嘉神社の東側に位置する松原神社。安永元年(1772)に8代藩主鍋島治茂公はるしげが藩祖鍋島直茂公なおしげ(法名:高傳寺殿日峯宗智大居士こうでん じ でん にっぼうそう ち だい こ じ)を祀るため「日峯社」を創建し、日峯明神あが(のちに大明神)として崇めたことに始まります。

ご創建にあたり、この松原の地が選ばれたことには理由があります。当時、新しく神社を作ることは幕府によりご法度はつとでしたが、「松原(土手)」に生えていた大楠の根元にはもともと石の祠ほこらがありました。そこで、新しく建てるのではなく既存の祠ほこらをもとにする形でお宮が建てられ、日峯社が創建されました。



「松原(土手)」は龍造寺氏時代の土手の痕跡(史跡)として保存されたとも考えられることから、藩祖を祀るにふさわしい場所とされたのかもしれませんが。長崎街道から150mほどに位置し藩内各地から参拝しやすく、藩主も参勤交代時に立ち寄るのが恒例でした。



鍋島直茂像
鍋島報効会(徴古館)所蔵



松原神社